



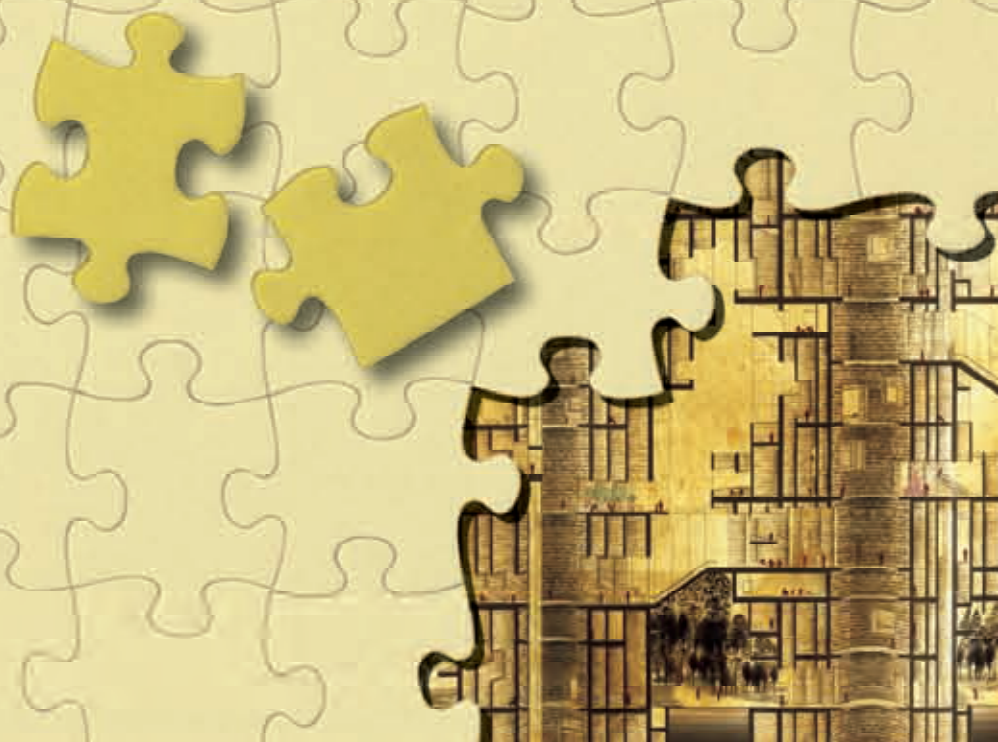
大学発教育支援コンソーシアム推進機構
Consortium for Renovating Education of the Future

学ぶとは
人とかかわり合いながら
賢さを育てていくこと

教育の未来は
私たちがみんなです

Learn a lot,

Make a friend who thinks





大学発教育支援コンソーシアム代表
(株式会社 三菱総合研究所 理事長／前東京大学総長)

小宮山 宏

大学発教育支援コンソーシアムとは？

「小・中・高等学校の先生方に、大学から生まれる新しい知識やその教育方法を発信し、みんなで教育の質を高めること」という趣旨に賛同する大学等により、平成20年に設立されました。

「社会総がかりで教育の質を高めよう」というフレーズは、初等中等教育に関する問題が、もはや当事者だけで解決すべき内容ではないと、広く社会に認識されていることを物語っています。これらの問題は、いずれ大学や社会にも影響するという事実、そして大学や社会も解決のカギを握っているかもしれない、あるいは関与することでよりよい相乗効果が生まれるのではという思いが感じられます。なにより社会全体が、日本の初等中等教育の再生と飛躍を心から願っており、もし危機にあるというのなら、何か手助けできないかと見守っているのです。

そのような発想から生まれたのが「大学発教育支援コン

ソーシアム」です。

アプローチの方法は様々です。大学での教育法・教材を提供する一方的なものから、それらを一緒に開発するという協働のプロジェクトまで。教員への研修や能力開発の実施といった直接的な方法から、企業人がその経験を活かして教育現場に参画する画期的な案もあります。アイデアは沢山ありますが、教育現場への押しつけにならないよう、歩幅を合わせて進む必要があります。

新しい道筋ですが、できないことはありません。

まずはやってみましょう。慎重に、大胆に。

参加機関・大学と取組み(平成22年度)

京都市教育委員会・京都大学

平成23年度までの市政運営の羅針盤となる「京都未来まちづくりプラン」の「政策推進プラン」の1つに位置づけて取組んでおり、NPO法人と共同で、算数・数学分野における自学自習システムの開発や、青少年科学センターにおける教材開発等を行っています。

名古屋大学

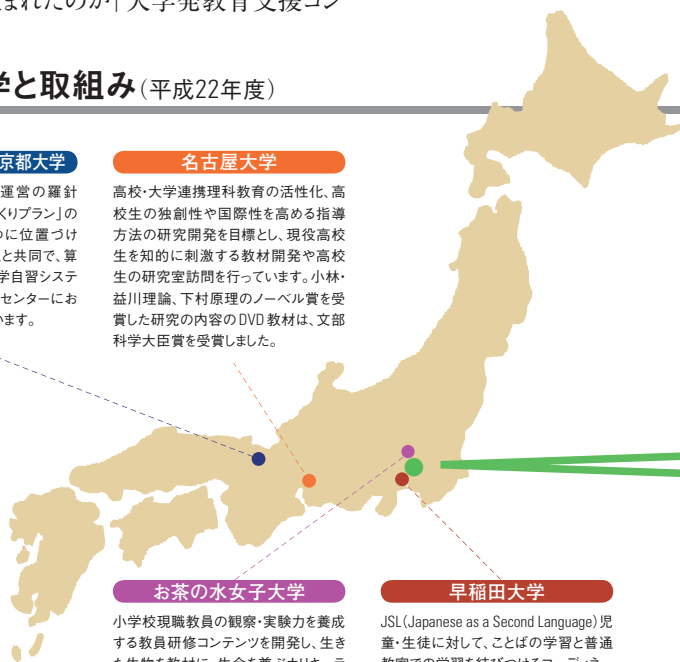
高校・大学連携理科教育の活性化、高校生の独創性や国際性を高める指導方法の研究開発を目標とし、現役高校生を知的に刺激する教材開発や高校生の研究室訪問を行っています。小林・益川理論、下村原理のノーベル賞を受賞した研究の内容のDVD教材は、文部科学大臣賞を受賞しました。

お茶の水女子大学

小学校現職教員の観察・実験力を養成する教員研修コンテンツを開発し、生きた生物を教材に、生命を尊ぶカリキュラムを推進する理科観察・実験センターを設置・運営しています。

早稲田大学

JSL (Japanese as a Second Language) 児童・生徒に対して、ことばの学習と普通教室での学習を結びつけるコーディネータの養成を目的とし、鈴鹿市教育委員会等と共同で、全国に通用する研修やプログラム開発を行っています。



なぜ大学発教育支援 コンソーシアムが 生まれたの？

平成18年10月、政府の教育再生会議では、教育界を取りまく様々な問題が議論されました。その最終報告では、「社会総がかりで教育再生を」というメッセージを発信し「大学発教育支援コンソーシアム」の設立が提言されました。

大学発教育支援コンソーシアム行動宣言

平成20年7月12日、東京大学においてキックオフシンポジウムが開催され、趣旨に賛同する大学・機関からなる「大学発教育支援コンソーシアム」が発足。次のような「大学発教育支援コンソーシアム行動宣言」を発表しました。



左から、杉山寛行名古屋大学理事・副総長、土田健次郎早稲田大学常任理事・副総長、門川大作京都市長、郷通子お茶の水女子大学学長、小宮山宏東京大学総長、西村周三京都大学理事・副学長（いずれも当時）

大学発教育支援コンソーシアム行動宣言

1. 多様な教員養成の仕組みと高度かつ継続的な研修を提供する。
2. 大学の知により教育内容の変化をリードし、教科内容の縦と横を連携する。
3. 大学を核としたネットワークのネットワーク（NNs）として、成果を共有・発信する。（*NNs=Network of Networks）

平成20年7月12日

今、大学発教育支援コンソーシアムは、大学、学会、産業界、地域社会の動きを巻き込みつつ、教育現場や教育委員会と連携して、社会総がかりで教育の質を高めようとしています。

❖ 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構とは…

- ① コンソーシアムの全体の取りまとめ役を担うこと、
 - ② 東京大学の小中高等学校支援プロジェクトを推進すること
- の2つの使命を持っています。

大学発教育支援コンソーシアム推進機構 機構長

写真⑤ 濱田 純一 東京大学総長

大学発教育支援コンソーシアム推進機構 副機構長

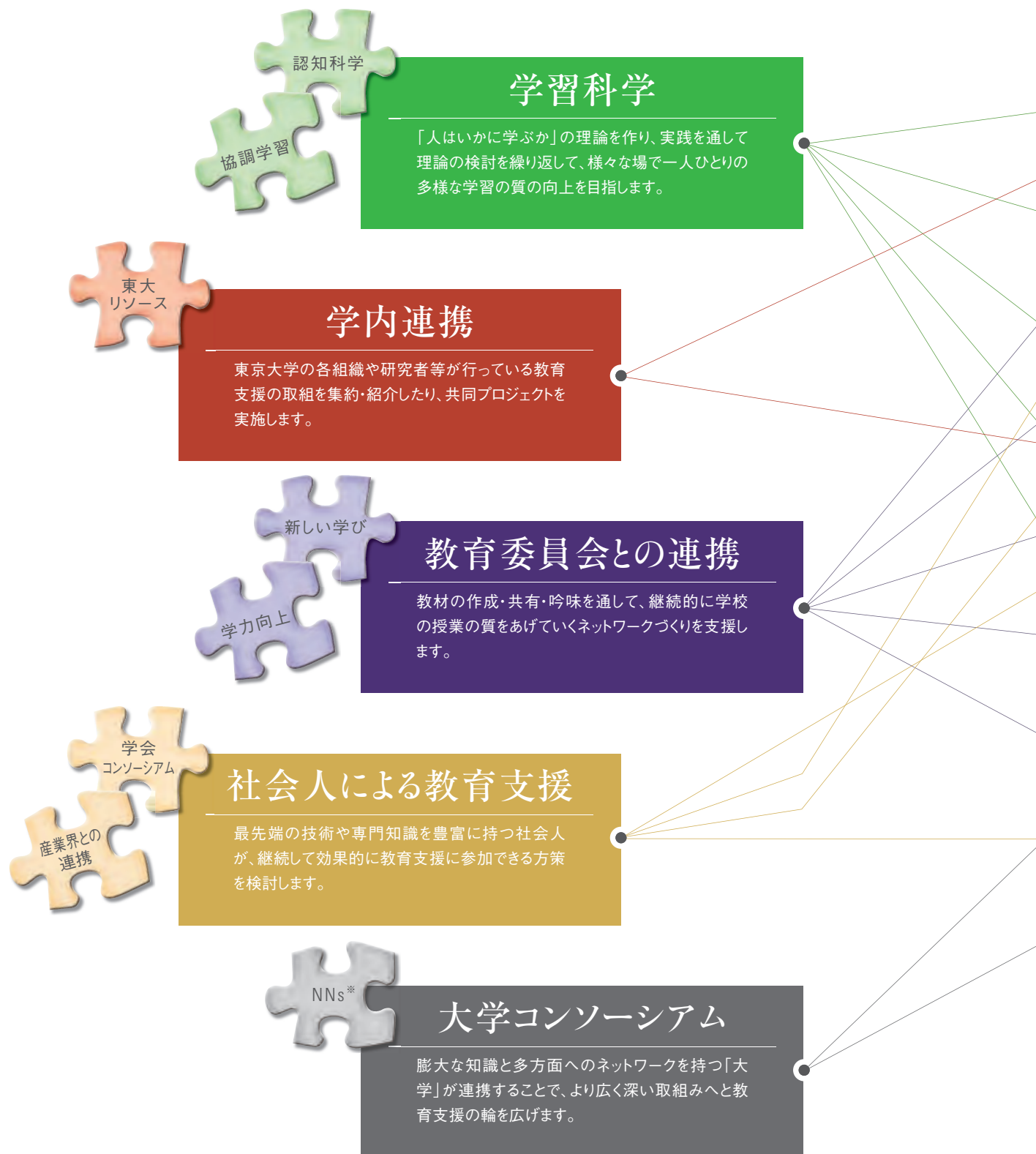
写真⑥ 三宅 なほみ 大学院教育学研究科・教授



「学習科学」の研究成果に基づく教育の質の向上を目指して

学習科学は、認知科学を基盤として学習理論を構築し、理論に基づく実践的な検討を繰り返して、質の高い学習を導き出そうとする研究分野です。学習科学の研究からは、一人ひとりの学習者が何かを「わかって」いくときの道筋は多様であり、同じ事実に出会っても、そのとらえ方はみんな違うということが明らかになってきています。この違いを生かしあって、一人ひとりが賢くなっていけるような学習の仕方を「協調学習」と呼びます。推進機構では、「学習科学」と「協調学習」の考え方をベースに、大学だけでなく、学会、産業界、教育委員会などのさまざまな組織と一緒に、学習を体験し、理解し、デザインし、実践・評価するコミュニティを作り、育てることによって、教育の質の向上を目指します。

コンソーシアム推進機構の活動



※Network of Networks

学び合い体験

たくさんの人が、一人ひとり少しずつ異なった考えを出し合うと、ひとりでは解けない問題が解けたり、思ってもみなかった新しい考えが生まれたりします。そんな学び合いを体験して、「協調学習」の具体的なイメージを描いていきます。

学びのしくみの理解

人と一緒に課題を解くことって効率的？ 21世紀に必要な知力って？ 学び合いがうまくいくポイントは？ 学習についてのいろんな問いを考えることを通して「人はいかに学ぶか」を問い直します。

教材開発

「先生方が授業で子どもたちに身につけてほしい知識は何か？」という問いを出発点に、先生方と推進機構のスタッフが一緒になって、協調的な学習を支援する教材をデザインします。

実践と評価

開発した教材は実際の教室で授業して、子どもたちの学習の成果とプロセスを検討します。授業をビデオに撮って活動の様子を見るとともに、先生や子どもたちの書いたものや発言から、実践を評価して次の授業につなぎます。

教材共有／実践交流

1つのクラスで実践・評価した教材は、別のクラス、先生でも授業をしてみても、結果を交流します。教材を知的な共有財産とし、ウェブを活用してみんなで作りかえながら質をあげていく「教材研究のネットワーク」づくりを目指します。

学び合うコミュニティの形成

この過程を通じ、賢さを育てることに興味関心のある人々の関わり合いの場として「学び合うコミュニティ」を展開するのがウェブ上の「CoREFポータル」です。知恵を集めて作った教材、その実践記録や評価から学習とは何かについての議論まで、賢さを育て続けるためのさまざまな支援情報を交換します。





他者との関わりを通して一人ひとりが賢くなれる「協調学習」体験の場

ワークショップと出張研修

教育関係者や一般の方を対象に様々なイベントや研修を行っています。その多くは、体験型のワークショップです。自然科学や学習の仕組みなどをテーマに、参加者がみんなで一緒に問題を解いたり話し合ったりしながら、少し賢くなれる実感を得られるような企画を準備します。学内での開催のほか、直接現場に出向くこともあります。

プログラムの例

- ・「水」の科学
- ・協調学習の仕組みを考えよう
- ・「聞く」と「読む」ではどう違う？
- ・「手」の文化
- ・人の考えはどこまで多様？



ワークショップの素材の例



「学習者中心型」の授業づくりを目指した、新しい学校教育の支援

教育委員会との連携による「協調学習」の授業づくりプロジェクト

様々な地区の教育委員会と連携し、21世紀に必要とされる「活用できる知識」の獲得を目指した「協調学習」の授業づくりを支える学力向上モデル事業を行っています。中心的な活動は、協動的に行う「教材づくり」「実践」「評価」のサイクルを形成することです。



教材づくりの様子

3つの支援

- ①先生方が知恵を出し合って教材づくりに取り組み、
- ②大学や産業界の専門家とも連携して、教材案をネットワーク上で共有し、みんなで実践して結果を交流し合い、
- ③他の先生と一緒に、①・②のサイクルを育て続ける

多様な連携スタイル

■「学力向上基盤形成事業」

—多様な高校を抱える大規模自治体との連携—

埼玉県立高校から、規模や学力、専攻などが多様な9つの研究指定校が参加し、国語・数学・理科・地歴公民・英語・美術の6教科で26名の先生たちが、一緒に研究を進めています。

■「新しい学びプロジェクト」

—多様な小規模自治体の連合との連携—

宮崎県五ヶ瀬町を中心とする9つの小規模自治体から、計13校(小学校5・中学校8)が参加し、国語・算数数学・理科・社会の4教科で13名の先生たちが、一緒に研究を進めています。

(参加市町) 和歌山県有田市、有田川町、広島県安芸太田町、福岡県春香町、大分県竹田市、熊本県南小国町、宮崎県宮崎市、国富町、五ヶ瀬町



<http://coref.u-tokyo.ac.jp/utresources/>

知の素材提供「東大リソース」

日々の授業や研修など、さまざまな実践に役立つ素材を集めて、ポータルサイトで公開しています。

- 小中高向け出張授業・講習会・見学会等／教材等
- 東大ウェブリソース
- 三省堂高等学校数学教科書電子版の公開
- UT-eTEXT(東京大学 大学総合教育研究センター開発)

芸術俯瞰講義、一般向けの公開講座、高校生のための金曜講座など、公開可能な講義ビデオ集。「講義名」「講師名」などで検索できます。

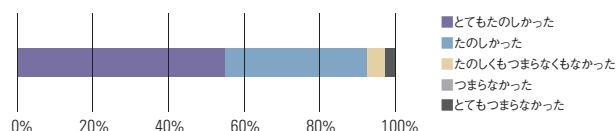
講師の生の声での語りを聞くだけでなく、講義資料、講義内容を文章化したもの、更にそれを補う参考資料や関連情報にもアクセスしながら学べます。



東大ウェブリソース

ワークショップ参加者の声

平成21年度協調学習体験型半日ワークショップ第4回 「子どもたちは授業から何を学んでいるの？」



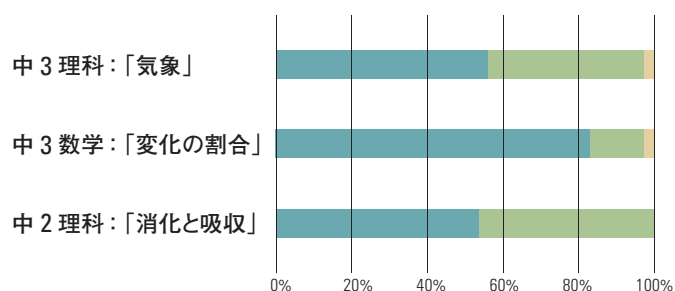
成果ポスターをつくる

- 学ぼうとする内容について、体験を持って理解をふかめられました。題材も共有できる内容で大変有意義でした。
- わからないことが増え、もっと学びたい、議論したいと感じる。自分一人ではできないことができて楽しく、頭を使ってすがすがしいもやもや感があります。
- 疲れた。おもしろくて有意義であった。生徒がこのような学習方法で「わからない」、「答えを早く教えて」という気持ちがよくわかった。でも、この方向で進んでいってよいのだということがわかってよかった。



話し合いの様子

「協調学習」の授業を受けた子どもたちの声



学び合い

- 問題を資料から読み取りながら、1から解決していくことがとても楽しかった。少しずつわかっていくのにも、達成感があった。
- 説明するときの楽しさや解けた時の喜びがわかった。
- 雲がどうやってできるか予想していたのとまったくちがってびっくりした。
- 話し合う活動がおもしろかった。すじみちを立てて話し合ったのが難しかったが楽しかった。
- 3つの資料を合わせることで、変化の割合を簡単に求めることができました。
- ふだん気になっている「雲」のことについてのこれからの勉強が楽しみです!!



グループ活動の様子

ジグソー法

ジグソー法は、協調学習の実践方法の一つです。あるテーマについての資料をグループで読み、理解したことを交換したり、答えを出したりすることで、次の学びを紡ぎ出す学習者中心の手法です。この過程を繰り返すことで「使える知識」を身につけることができます。

「学譜」

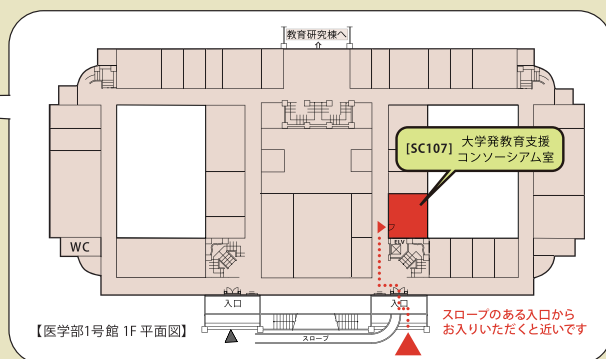
「学譜」とは、協調的な学習を引き起こすための学びのデザインをあらわす造語です。ポータルサイトでは、研修やモデル授業用に練り上げた学譜とその演奏例を、配付資料や授業のビデオなどを通して紹介しています。明日の授業で使える素材です。



CoREFポータル

活動の内容を詳しく知りたい方はCoREFポータルをご訪問下さい。
ここを拠点に、新しい学びについての交流の場を作っていく予定です。

<http://coref.u-tokyo.ac.jp/>



[事務室所在地] 東京大学 本郷キャンパス 医学部1号館 1階 SC107号室

[郵送先] 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学 大学院教育学研究科内 大学発教育支援コンソーシアム推進機構



東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構

TEL 03-5841-3682 FAX 03-5841-2984 Email info@coref.u-tokyo.ac.jp

<http://coref.u-tokyo.ac.jp/>